令和５年度第２学期終業式「校長講話」

○　浦商生の皆さん、おはようございます。
○　今回もしばらく起立したままで、聴いてください。少し両足の間隔を広げて結構です。また、具合が悪くなりそうな予感がしたら、速やかにかつ静かに腰を下ろしてください。周囲の人も具合の悪そうな人を見かけたら、座るよう声をかけてあげたり、場合によっては支えてあげたりしてください。

○　さて、今日は、大きく３点お話をしたいと思います。**１つ目は浦商や浦商生に対する評価に関する話**、**２つ目は生徒の皆さんや教職員の皆さんに協力いただいた第２学期の振り返りアンケートの集計結果の話**、そして、**第３学期の始業式に向けた話**です。

○　それでは、**１つ目の浦商の評価について**お話をします。

○　ここで質問をします。挙手で答えてください。選択肢は「はい」か「いいえ」です。浦商のホームページにある、１２／１１付けの校長ブログ「浦商卒業生22歳が公認会計士試験合格」を見た人は手を挙げてください。
○　このブログの主人公は、皆さんの先輩である浦商の卒業生、ちょうど卒業して４年目の櫻井陽太さんです。
○　私は、櫻井さんにインタビューしました。**櫻井さんの話の要点は「自分の可能性を信じて」ということ**です。
○　櫻井さんは高校時代から公認会計士になることを夢見ていました。しかし、「果たして自分のような者が目指してよいものなのか。」と、夢と現状のギャップに焦燥感（もやもや）を抱いていたそうです。それでも、高校時代に日本商工会議所簿記検定試験２級**（日商簿記２級）に合格し、少し自信を持てた**そうです。
○　櫻井さんは、浦商卒業後、日本大学商学部に指定校推薦制度を利用して進学しました。財務会計のゼミに入り猛勉強し、２年次に**日商簿記１級を取得**し、３年次には３度目の正直で**公認会計士試験の短答式試験に合格**しました。**夢が目標になった瞬間**だと言っていました。
○　ここで櫻井さんは英断を下します。なんと日本大学を３年次で中退し、早稲田大学大学院会計研究科を受験する決断をしたのです。
○　その理由は、**優秀な大学院生と競い合いながら自分を高めていきたい**と考えたからです。
○　櫻井さんは、「早稲田の学生は公認会計士試験の合格率も高い。先生の指導力も学生の能力も高い。それらがすべて自分の公認会計士試験合格への学びの遠心力になった。」と言います。実際、大学院での学びは論文式試験の合格へとつながり、**公認会計士試験の最終合格**に至りました。
○　現在、某大手監査法人への就職も内定し、来年度は同法人の非常勤職員と大

学院生の二足の草鞋を履くそうです。

○　櫻井さんは、「夢に向かって努力し成果を挙げ、いつしか夢が明確な目標になった。そして、大きな目標への第一歩ではあるが、公認会計士試験合格という当面の目標を達成できた。自分の可能性を信じ努力する大切さを、後輩の浦商生にも伝えたい。」と言います。

○　以上が櫻井さんへのインタビューをまとめた校長ブログの内容です。

○　私は「自分の可能性を信じて」が、櫻井さんの話の要点だとお話ししました。櫻井さんは、夢に向かって努力して日商簿記２級、１級に合格し、そして、公認会計士試験の短答式試験に合格しました。**自分の可能性を信じながら、努力を重ね少しずつ成果を挙げていった**のです。ここがポイントです。やはり成果を挙げていかないと自分の可能性はなかなか信じ続けられません。合格したら次はもう一つ上位の試験を受けていく仕組みは、自分の可能性を信じていける良いシステムだと思います。

○　そして、日商簿記 1 級と公認会計士試験の短答式試験に合格した時、夢が目標に変わったと言っています。

○　ここで質問をします。**夢と目標の違いは何だと思いますか。「夢は〇〇だが、目標は××」と答えてください。**

○　答えは、「夢は達成までが遠くて数値化しにくくぼんやりしているものだが、目標は達成までが近く数値化しやすいはっきりしたもの」です。これは、福嶋隆史さんの著書「カギは「反対語」にあり！　思考力がある人のアタマの中身」から出典です。この回答は、絶対解ではなく、ある程度の人数の人が「そうだね」と指示する納得解です。

○　**櫻井さんは、日商簿記 1 級と公認会計士試験の短答式試験に合格した時、達成までが遠くて数値化しにくくぼんやりしている夢が、達成までが近く数値化しやすいはっきりした目標にチェンジした**のです。だから、大学を中退して大学院へ入学するというチャレンジができたのです。

○　**自分の可能性を信じ続けるには、努力と成果を繰り返して夢を目標に切り替える必要がある**のです。

○　話を前に進めます。このブログを見た**ある教育評論家が自身のブログに、「浦商からこういう卒業生が出現しても、そんなに驚かない。」と記述**していました。浦商で学んだ卒業生なら、そういう努力と成果を挙げてもおかしくないというのです。

○　**これは、浦商と浦商生への最高の賛辞です。皆さんは、今現在、櫻井さんのように自分の可能性を信じ続ける土台を養っている**のです。

○　ここで、私の話の半分が終わりましたので、着座してください。

○　それでは、後半の話をします。

○　私の話の**２つ目は、生徒の皆さんや教職員の皆さんに協力いただいた、第２学期の振り返りアンケートの集計結果について**です。

○　生徒の皆さんへのアンケート結果について、先生方へのアンケート結果を交えながら話をしていきます。

○　まず、**「授業において生徒が発言したり、議論したり、文章を作成したりする場面が多いか」という質問に対して、8 割強、つまり 8 割を超える生徒が「多い」と答え**てくれました。このような**アウトプット活動は、生徒にとっては知識を使える知識に変えることができます**し、先生方にとっては生徒の理解度を把握して次の指導に工夫を加えることができるようになる有効な方法です。さらに続けていってほしいと思います。

○　次に、「**授業に見学に来る先生が多いと思いますか」ですが、５割強の生徒が「思わない」と回答**しています。実は、浦商では、先生方に「年２回は授業見学に行きましょう」という目標を立てています。先生方のアンケート結果では、約３割の先生がまだこの目標を達成していませんので、**３学期はもっと多くの先生が授業見学に行くはず**です。

○　次に**「企業や大学などの外部と連携した授業や学校行事、部活動などがどのくらいありましたか。」について、「３回以上」の回答が約３割、「２回」も約３割、「１回」が約２割、「ない」が約１５％**でした。１学期に比べると、大幅に増えています。こちらについても、浦商は先生方に「年２回」は外部連携をしましょうという目標を立てています。３学期も引き続き、外部連携を進めます。**外部と連携することで、学校で習った知識や技能を使える知識・技能に変えていきます。**

○　次に**「相互通行（やり取り）の ICT 利用が多いか」の質問に、６割強の生徒が「多い」と回答**してくれました。先生方への質問では「３回以上行った」が約３割、「２回行った」も約５％、「１回行った」が約２割で、「行っていない」が約５割です。相互通行の ICT 利用は、先生方にとっては多くの生徒の理解度を瞬時に把握して次の指導に生かせますし、**生徒の皆さんにとってはいろいろな人のいろいろな考え方を学ぶことができるようになります。**有効活用を期待しています。

○　次に**「キャリアパスポートや生徒手帳、学習の手引きなどの活用度」ですが、正直、よい結果ではありません。キャリアパスポートやその他の支援ツールは皆さんのキャリア形成に有効ですので、活性化が図れるよう工夫していきます。**

○　最後に、皆さんに短文回答をいただきましたが、ここでは触れません。皆さんからの回答を先生方に示しましたので、説明や対応があると思います。

○　繰り返しになりますが、アンケートへの協力ありがとうございました。

○　**３つ目の話は短い話になります。私は、冬休みに皆さんに宿題を出します。**宿題といっても、簡単なものです。さっと解答するならば、**３分もあれば対応できる内容**です。

○　**本校の生徒４名が出場した、リテールマーケティング・コンテストで出題された問題を皆さんに答えてもらいます。**グーグルクラスルームで出題しますので、ぜひ解答してください。**第３学期の始業式でその回答をもとに校長講話**を行います。**誰がどんな解答をしたかは公表しませんので、安心して答えてください。**

※解答のヒントは、１つ目の話の「夢は〇〇だが、目標は××」にあり

○　それでは、１年間お疲れさまでした。よい年を迎えてください。